

平成30年度 6年生「全国学力学習状況調査の結果」より

4月17日に、6年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果が返却されました。今年度は、国語・算数・理科と生活習慣を問う児童質問紙調査が実施されました。本校の子ども達の状況を報告させていただきます。

総合結果（国語・算数・理科）

国語A・B、算数A・B、理科の全てにおいて、全国及び京都市の平均正答率を上回りました。無回答率も低く、一生懸命問題に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が見られます。

国語科

全体的によくできていました。特に、国語Aの、「想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」という『書くこと』の領域、国語Bの「計画的に話し合うために、司会の役割について捉える」という『話すこと・聞くこと』の領域の問題が大変よくできていました。その一方で、国語Aの「目的に応じて必要な情報を捉える」、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」、国語Bの「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」といった『読むこと』の領域については、京都市平均を下回りました。

算数科

全体的によくできていました。特に、算数Aの「小数の除法に関する問題」、「円周率に関する問題」、算数Bの「図形に関する問題」「グラフを読み取る問題」は、京都市平均に比べ、大変高い正答率でした。その一方で、算数Aの「単位量当たりの大きさ」、「百分率」に関する問題、算数Bの「示された情報や考え方を解釈し、条件に合う数量を求めたり判断したりする問題」においては、京都市平均を下回りました。

理科

全体的によくできていました。特に「生命に関する問題」は、京都市平均に比べ、大変高い正答率でした。その一方で、「流水の働き」に関する問題は京都市平均を下回りました。

児童質問紙調査から

「学校のきまりを守っている」・「いじめは、どんな理由であってもいけない」・「家で、学校の授業の予習・復習をしている」の「あてはまる」が全国に比べても大変高く、児童の規範意識の高さ、学習習慣の定着が窺い知れます。

今後に向けて

本校では、『紫野を愛し、夢に向かって主体的に学び合う人間性豊かな子の育成』という学校目標のもと、保護者や地域の皆様のご協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。

全国学力学習状況調査の児童質問紙調査では、「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」・「今住んでいる地域の行事に参加している」・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」・「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の「あてはまる」が、全国に比べ、倍近くあり、これまでの取組の成果が今回の結果にも表れていると言えます。

今後も、学習の中での「話し合い活動」の充実、集会活動・縦割り活動等の異学年との『話す・聞く』機会の設定、生活科・総合的な学習の時間、生活単元学習を中心とした地域の方々との『話す・聞く』機会の設定、といった『自分の思いや考え方を伝え、相手の思いや考え方を受け止める』学習環境をつくりあげ、さらに、朝の「チャレンジタイム」を有効に活用し、基礎学力の定着を図っていきたいと思います。

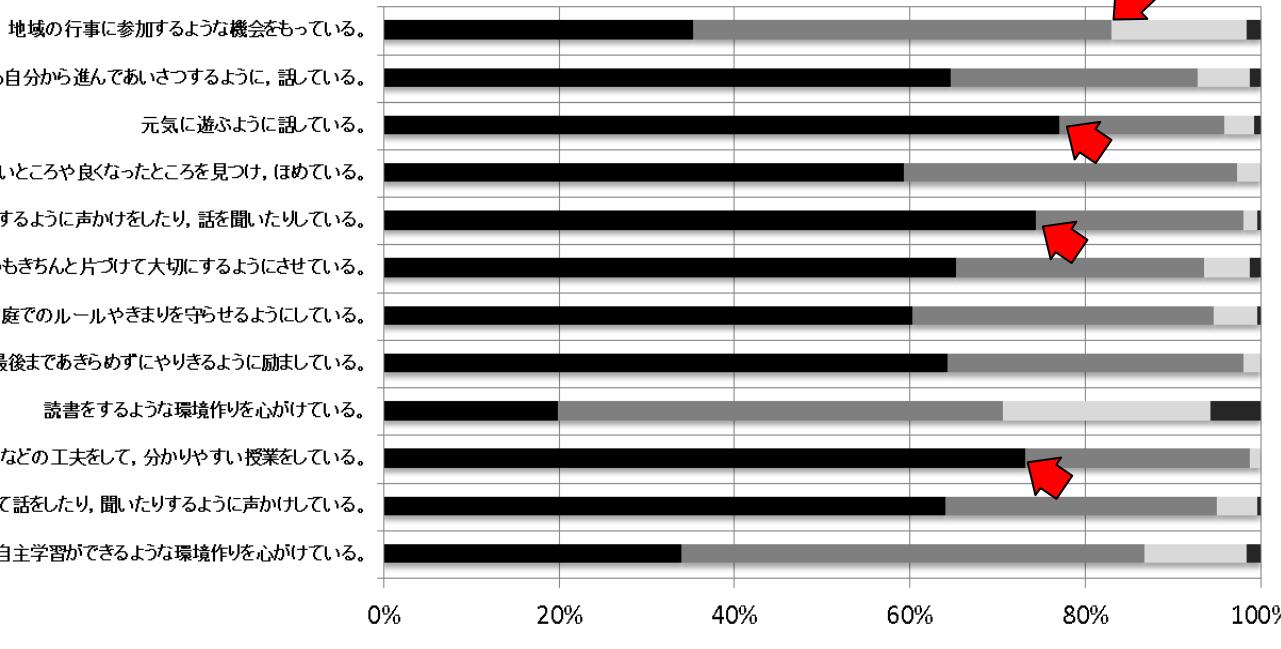
引き続き、保護者や地域の皆様のご協力をいただきながら、子どもたちの確かな学力の向上に向けて、学習活動の充実・学習環境の整備に努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

平成30年度（前期） 紫野教育評価の集計結果のご報告

今年度も、学校評価を実施させていただきました。学校評価は、学校・家庭・地域が自らを振り返り、子どもたちのためにできることを考え、共に行動するきっかけとするものです。このことが、地域ぐるみで子どもを育てるにつながると考えております。

今年度も、多くの保護者の皆様にご回答いただき、ありがとうございました。集計結果を報告させていただきます。

【保護者】

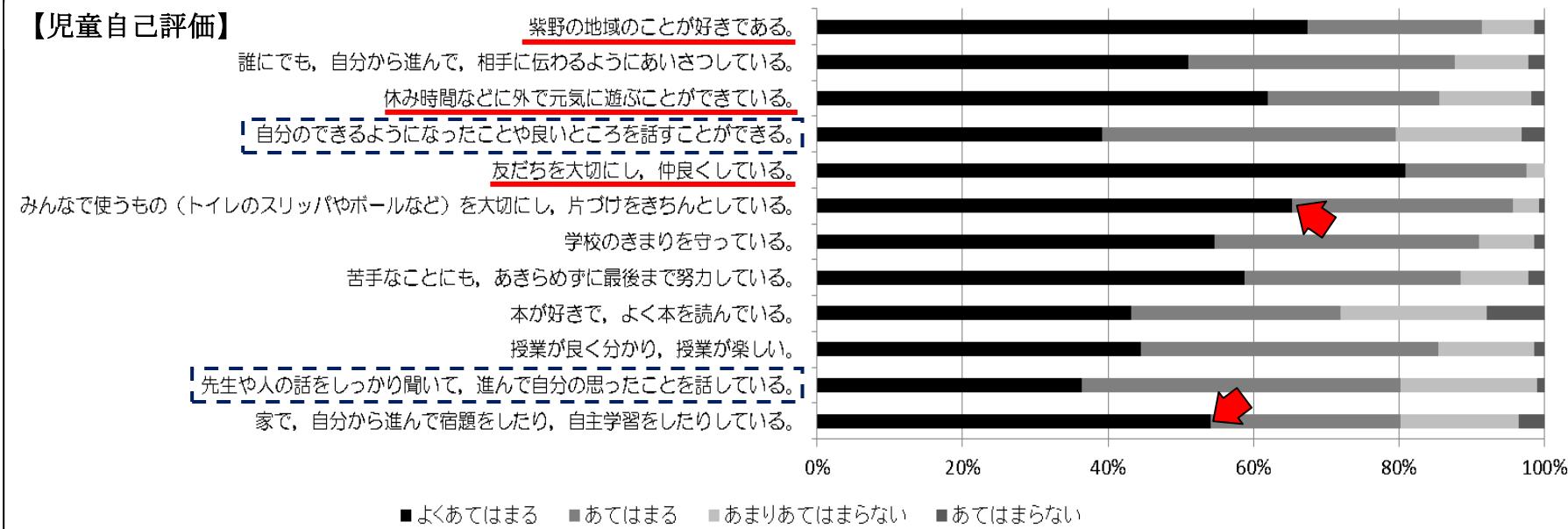


今年度、「地域の行事に参加するような機会をもっている」の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の評価が80%を超えるました。毎年アンケートを行うごとに、この項目の評価は上がっています。児童自己評価では、「紫野の地域のことが好きである」が、評価の中で2番目に高い項目でした。「生活科・総合的な学習の時間、生活単元学習」の学習で、地域のことを調べたり、地域の方々のお話を聞いたりする等の機会を多くもっており、ご家庭でも地域の行事を意識していただいていることが、子どもたちが、学校教育目標にある「紫野を愛し」に向かっていると考えております。

保護者の方が一番大切にしてくださっている項目が、「元気に遊ぶように話している」と「友達を大切にして、仲良くするように声かけをしたり、話を聞いたりしている」でした。児童自己評価でも、「友達を大切にし、仲良くしている」、「休み時間などに外で元気に遊ぶことができる」は高い評価でした。各ご家庭で大切にされていることが、子どもたちにしっかりと伝わっていることがよく分かります。

そして、「先生は、1時間のめあてを児童に伝え、分かりやすい板書をするなどの工夫をして、分かりやすい授業をしている」の項目で高い評価をいただきました。今後も、子どもたちが主体的に学ぶことができる授業を展開し、学校教育目標に向かっていけるよう努力を続けていきたいと思います。

【児童自己評価】



今回の結果で、「よくあてはまる」の評価が3番目に高かったのが、「みんなで使うものを大切にし、片づけをきちんとしている」です。子どもたちの規範意識が高まっていることは喜ばしいことですが、学校の様子を見ると、“スリッパがそろっていない”、“ボールが片づけられていない”ということが、しばしばあります。意識はあるものの、まだ行動に表れていない面があるのが現状かと思われます。ぜひ実践してほしい項目です。

「自分のできるようになったことや良いところを話すことができる」、「先生や人の話をしっかり聞いて、進んで自分の思ったことを話している」の「話す」に関する項目は、「よくあてはまる」が依然として低い数値ではありますが、徐々に上がってはきています。「あてはまる」も含むと、どちらも80%前後まで達しています。子どもたちの意識は少しずつですが、変わってきています。今後も、月1回の「児童集会」や「人権集会」「学習発表会」等、全校児童が集まる場で、自分の考えやできるようになったことを発表する機会を設けたり、研究教科として取り組んでいる「生活科・総合的な学習の時間、生活単元学習」でも、ペア、グループ、クラス全体等、自分の考えを発表する場面を多く設ける工夫をしたり等の取組を継続し、指導者が良い点をたくさん見つけて褒めることで自信をつけさせる等、意欲的に発表できる環境を作る努力をしていきたいと思います。

「家で、自分から進んで宿題をしたり、自主学習をしたりしている」の項目も、「よくあてはまる」が上がってきています。学校全体で「自学自習」を推進していますが、その効果が表れつつあります。しかし、下記の教職員の評価の「家庭学習や自主学習ができるような取組を行っている」の項目を見ていただければお分かりの通り、教職員の中では、まだまだ取組が不十分だと認識しています。今後はより一層、子どもたちが意欲的に自学自習に取り組めるよう働きかけ、習慣として定着できるようにしたいと考えています。

その他、教職員の評価についても、自信を持って自己を評価できるよう、より一層の努力と研鑽を重ね、保護者、地域の皆様と共に『紫野を愛し、夢に向かって主体的に学び合う人間性豊かな子の育成』に向けて、教職員一同、邁進してまいりたいと思います。今後とも、紫野学校教育にご支援・ご協力の程よろしくお願ひいたします。

【教職員】

